

高き志【にころざし】

目指す学校像

地域とともにある

勢いのある学校

No. 15 (R元. 8. 26発行) 文責 校長 福田雅也

緩やかなスタート

夏休みが終わり、校舎に子供たちの元気な声が帰ってきました。やはり、学校には子供たちの活気が必要です。

小学校の頃の自分を思い出してみると、夏休みが終わる頃、何ともいえない切ない気持ちになっていたことを思い出します。ツクツクボウシの鳴き声を聞く頃には、「ああ、自由研究が終わってない」「読書感想文を書かなくては」とのあせりと、「思い切り遊べた夏休みがもうすぐ終わる」という現実が私をそんな気持ちにさせていました。きっと保護者の皆様も多少はそんな気持ちになった経験をお持ちだと思います。また、先週あたり「宿題終わったとね。もうすぐ夏休みが終わるとよ。はよせんね。」というような言葉が聞かれたご家庭もあったのではないかと思います。

とは言え、高木小学校の子供たちはすごいです。そんな気持ちや状況を見事に乗り越え、本日は元気に学校に来てくれました。私たち教師にとっては、何よりもうれしいことです。

私はこの時期、必ず職員にお願いすることがあります。それは、子供たちがあまり大きなギャップを感じないように緩やかなスタートを意識してほしいということです。「緩やかなスタート」、漠然としていますが、まずは教師の心に十分なゆとりがあることが一番大切だと考えています。そして、具体的にできることとしては、次のようなことを考えています。しばらくは、夏休みに楽しかったことを伝え合ったり、プールで思い切り遊んだり(今週は少し寒そうですが)して、「明日学校に行けば、〇時間目が楽しみだな」と思えるような時間を設定すること。そして、宿題が終わっていない子供には、その子の状況や気持ちに寄り添いながら、時間がかかってもいいので「宿題を終わらせた」という達成感だけは味わわせること。

私たち大人でも、長い休みの後は仕事に行くのが億劫になります。子どもたちも同様でしょう。ましてや、「宿題が終わっていない」ともなると学校に足が向かなくなるのも当然です。

また、マスコミでも多く取り上げられているように、今の時期に青少年の自殺が増える傾向があります。内閣府が2015年6月に公表した自殺対策白書によると、18歳以下の自殺者数について過去40年ほどにわたり日別に調べた結果、9月1日が131人と突出して多い人数でした。その前後も、9月2日が94人、8月31日が92人など、夏休み明け前後に増える傾向が分かっています。原因は上に書いたようなスタートのギャップに、いじめ等の友人関係の不安が加わり、「学校に行かなくてはいけない」気持ちと「学校に行きたくない気持ち」の葛藤がより大きくなるのだろうと考えられます。その整理がつかない場合に、自殺という選択肢が浮かび上がってくるのだと思います。

本校の子供たちについて大きく心配しているわけではありませんが、この面にもしっかりとした対応が必要だと考えています。具体的には、各担任に子供たちの様子をいつも以上に丁寧につかむように話しました。何より大切なのは、この数日間で、子供たちのつぶやきや様子、提出物等から、心に不安がある子供を早めに把握し、早めの対応をとることだと考えているのです。

このように、この時期の子供たちの心が不安定になることは当然考えられることです。私たちは、子供たちのちょっとした変化や、ふとした表情から垣間見える不安を見逃さないようにしなければいけません。

そのためには、子供たちの心に不安があることを前提に、上にも書いたような緩やかなスタートを切ることが必要だと思います。私たち大人の心にゆとりがあれば、子供たちも少しは安心できるのではないのでしょうか。そして、子供たちの様子をより冷静に見つめることができるのではないのでしょうか。高木小学校の2学期のスタートは、いきなり全力スタートではなく、ゆとりをもった緩やかなスタートにできればと考えています。

ご家庭でも、子供たちの様子に少しでも気になることがあれば、すぐに担任までお知らせいただければと思います。

2学期も、どうぞよろしくお願ねがいいたします。